

日頃から大変お世話になり、ありがとうございます。

年始から株価が暴落しています。もちろん、専門家たちがいうように、株価の動きに一喜一憂すべきではないでしょう。しかし、逆にいえば、株は変動が激しい資産だということです。

ところが、安倍政権は一昨年の上議院の前に、突然、私たちの基礎年金の半分を、変動の激しい株式で運用しはじめたのです。

年金積立金は、その年に余った保険料を積み立ててきたもので、130兆円ほどあります。この巨額のお金は、年金の管理の事務費と将来の年金の支払いに使われるものです。

これがかつては、比較的安定した国内債券を中心に運用していましたが、次の表のように、安倍政権のもとで、株式中心の資産運用に変更されたのです。

当初(奇しくも衆議院選挙の直前)、株価は急上昇。当然です。巨額の年金が株式市場に流れ込むのですから。しかし、「アベノミクス」という官僚主導プチ・バブル政策による株価上昇などは、あえなく崩れます。

～年金積立金の資産運用の割合～

以 前			安倍政権後		
国内債券	67%	⇨	35%	}	50%
国内株式	11%	⇨	25%		
外国債券	8%	⇨	15%		
外国株式	9%	⇨	25%		
短期資産	5%	⇨	0%		

実際、昨年の7～9月の数字をみれば、年金積立金は8兆円近い赤字を記録しました。これはリーマンショック以来の数字です。

すでに、高齢化の中、年金積立金は毎年、4、5兆円程度、年金の支払いのために取り崩されてきています。株価が下落し、積立金が減少すれば、どうなるのでしょうか。損失分を埋め合わせるために、年金保険料を上げるか、給付額を減らすか、いずれにせよ、国民が負担を強いられることとなります。誰も責任をとらないでしょう。

安倍政権は、一時の株価対策のために、とんでもなく愚かなことをやっています。年金は政治家や官僚のお金でもありません。老後のための国民のなけなしの財産です。私たちの年金が消えることがないように、今後も、この問題はしつこく注視していかなければなりません。